

---

# ルパン三世VS怪盗レッド

ケロロ軍曹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ルパン三世VS怪盗レッド

### 【Nコード】

N0465Z

### 【作者名】

ケロロ軍曹

### 【あらすじ】

どうも。新米だけど、新米じゃないケロロです。

少年少女物の小説を手にとってこれはいける！と思い。書いてみました。

ガンマニアなのでガンが登場します。

怪盗レッド。大人や高校生でも面白く読めるので是非読んでみて下さい。

後、誤字や間違い説明があれば、間違いをお申し付け下さい！お願いします！

## ブローグ1（前書き）

どうも。新米だけど、新米じゃないケロロです。  
ダメ文ですが、温かい目で見守って下さい。

## プロローグ 1

とある博物館。時間は深夜だ。

この博物館にある予告状が届いた。博物館に届く予告状と言えば分かるだろう。

そう。盗みの予告だ。勿論警察は完全なる警備を敷き、万全な装備で迎え撃つだろう。誰もが盗むのは無理。そう思った。この男以外は……。

「えっほ。ほいさ。えっほ。ほいさ。」と。何処かに有りがちな声でシャベルをふるう2人組。

「いやーこんなことしてて本当に着くのか？ルパン。」と黒ずくめの帽子と服を身にまとった男が言う。

ルパンと呼ばれた男は「俺の計算に間違いがあつたか？次元よ。」と赤いジャケットと黒いTシャツを翻し言った。

「いや。間違いは……ねエと思うが……。随分と遠いところから掘るんだな。」と次元と呼ばれた男が言った。

「ああ。やつこさんら（警察）も結構な遠いところから警備を敷いてる。だからいつもの通り穴を掘っていくのさ。」

この男たちは一体誰なのか。そう。この男2人組こそ。事件の主要人物のルパン一味の一部なのである。

そして前を通る赤いジャケットに黒いTシャツ。黒いズボン。そしてカンタス・マール製の高い（48万）のネクタイをした男こそ我らがルパン三世である。

そして後ろの黒ずくめは、次元大介。ルパンの信用する仲間の一人である。

黒い帽子に黒く長い髭で隠れた目はあまり見えないが、時折驚いたとき等に目を出すのが特徴である。

「ふいー。疲れたあー。うん。確かここらだと思っんだが……。」「つんつんと天井をシャベルで突くルパン。」

パラパラ・・・という音がし、黒い床が姿を表した。

「おっ・・・。とうとう着いたぜ次元。」とルパン。

「やつとか。いい加減掘りつかれたところなんだ。」と次元。

「待て待てって・・・。おらっ！」

ガチンという音がして床が壊れた。そして床の穴から美術館内を覗いた。作戦通り。穴から抜けると誰もいなかった。おかしい。ルパンはそう思った。父つつあんは外の警備に回っているが、大事な予告した宝物に誰もいないとは不自然だ。まあいいか。そう思い予告していたという宝物を見上げた・・・が。

なかった。ルパンは我が目を疑った。無かったのだ。驚き、辺りを見回した。と2人の警備員が眠らされていた。想定外だった。

「おい次元。」ルパンは俄かに次元を呼んだ。「何だルパン？まさか俺たちの狙った宝がねエとでも言うのかい？」と面白半分に次元は言った。

「そのまさかだよ。次元。ねエのさ。」

「何！？。」次元も驚き穴から宝の入っていた防弾ガラスケースを覗きこむ。

「どうしたんだよ！ルパン！畜生！何のお宝か教えてくれなかったんだってんだから不二子に頼まれたのかとは想像はついていたがな！不二子だぜ！あの野郎！」と吐き捨てる次元。どうやらお宝が何なのかは知らされていなかったのだろう

しかし、よくも不二子を！とここは猛然と怒りだすルパンだが、何故か一点だけを集中して見ている。

「おい？どうしたんだ？ルパン。」と次元が肩を揺さぶりながら言う。

そしてルパンは次元に一枚の紙切れを渡した。

赤い羽根のような模様の書かれたカードだった。

## プロローグ 1（後書き）

感想、誤字の訂正等、お願いします！

## プロローグ 2 (前書き)

次話投稿です。



## プロローグ 2

「・・・どうなってんだ。」

そう次元は呟いた。

「くそつ。俺達より先に誰かが盗みやがったのか。しかもこのマー  
クは・・・。」

次元はルパンを見やった。

「・・・最近噂になり始めた怪盗レッドだな？」

とルパンも次元を見やりにやりと微笑を浮かべた。

「嬉しそうだな？ルパン？」

「まあな。」とルパンは笑った。その次の瞬間にドアが勢い良く開  
いた。

「ルパン！逮捕だあゝ！」威勢の良い叫び声を上げながら、大勢の  
警官とルパンの宿敵、銭形幸一警部が現れた。

「おゝや。とつつあん。」

「ルパン！今度という今度はもう捕まえてやるぞ！」  
と銭形が叫ぶ。

「いやとつつあん。今度は俺達は盗んでねえよ！」とルパンが必至  
の弁解をする。

「嘘をつけ！ちやあゝんと盗まれているではないか！」と銭形。

「いや俺達が来る前に盗まれてたんだよ。」とルパンがにやにやし  
ながら言った。

「何？」と言いながら銭形がルパン達に近づいた。そしてルパンの  
持っていたカードを見た。

「・・・こいつあ・・・。もうひとつの予告状じゃないか！」と銭  
形が叫んだ。

「ヘエ？その・・・怪盗レッドも予告状を出していたのかい？」と  
ルパン。

「ああ。大々的に報道されたよ。」と銭形が言った。

「成程な。俺達は一週間も穴掘り続けてたからなあ。」と次元が納得したように呟いた。

「そんなことよりも！逮捕だあゝ！」と銭形がいきなり叫んだ。

ルパンは、「おいおい待つてくれよ。とつつあん。俺達じゃねえつて。」とルパンが手を振りながら行った。

「はっはっはっは！今どうしようとかうしようとか関係ないわい！」

「無茶苦茶だなあ。」とルパンが呆れた調子で言った。

「泥棒に言われたないわい。」と銭形がルパンに手錠を掛けた。と、ルパンの手が外れ、いきなり外れたルパンの手が爆発した。銭形はよろけ、尻もちをついてしまった。と、博物館の天井が丸く切られた。と、その天井の穴から和服を着た男が飛び降りてきた。そう。

その男こそ、ルパン一味の一人。石川五右エ門である。大泥棒。石川五右衛門の子孫であり、愛刀、斬鉄剣を持ち、江戸時代の人物のような言い方と身のこなしが特徴だ。「・・・ルパン。助太刀致す。」と言うと、斬鉄剣を振った。

と、警官達の服や拳銃などが一瞬にしてバラバラに切られてしまった。まあ、尻もちをついた銭形は助かったが。

と、天井からヘリのロープが下りてきて、ルパンと次元、五右エ門はそれに捕まった。銭形もつかもうとしたが、ルパンに蹴り落とされてしまった。まあ、ズボンを掴み、引きずり降ろそうとしたから当たり前だが。そして銭形が追いかけると叫び、ルパン達は逃げ去った。こうして、大事件は幕を閉じた・・・ように見えた。

今日はなんて良い日なんだろう！

ある町の道路を歩いている少女はそう思った。その少女は、とても健康的で、何ら変わりのない一般の少女に見えた。怪盗レッドであることを除けば。

この少女は、紅月飛鳥と言う。髪の赤い普通の少女に見えるが、ビルを二十階までロープ無しで登ったりと、考えられない事をやってのける少女だ。怪盗レッドであれば当たり前か。明るく、元気なのは良いが、多少大雑把だ。

紅月飛鳥。彼は怪盗レッドの実行犯だ。

その隣を歩くのが、紅月圭。アスカの行く先々の美術館や博物館のナビを担当する。IQは200ともはや考えられないレベルであり、アスカの良き相棒である。ナビを担当するときは、性格が一変し、一人称も俺に変わる。いつもは無口で、たまに喋ると、口が悪い。まあ、そんなこんなで、盗み出した品……。箱に入っており、中身を確認することはなかった。何故なら、理由は分からないが、依頼した人物が、持ってくるまで開けないで欲しいと言ったからだ。そう。今2人は、盗み出した品を持って、依頼者に届けているのだ。依頼者が、本人でなければ信用が出来ないらしい。2人が子どもであることは、事前に知っている。なんでも、ある会社の社長で、その品は、盗まれたものらしい。……。届けに行くことを、ケイは嫌がったが。歩くのが嫌なのか？

それはそうと、ふとアスカが、ケイに向かって言った。

「すつつごく良い日だね！新聞には、ルパン三世、怪盗レッドに敗れたり。なんて書かれちゃってさあ！」と興奮した調子で喋っている。怪盗として、これ程嬉しい事は無いだろう。何故なら、大先輩である、ルパン三世を出し抜き、それに新聞にまででかかと載ったのだから。

しかしケイは落ち着いたもので、「まあな。」と言うと読んでいた本に目を移した。

「何よ……。自分だって嬉しいくせに……。。」と呟いた。聞こえていただろうが、ケイは無視した。

そうしているうちに、その依頼者の会社に着いた。この頃は、大変になることには、想像もしてなかっただろう・・・。

## ブログゝ2（後書き）

感想、誤字等お願いします！

## 第1話〜出会い〜強襲（前書き）

はい。サブタイトルのサブタイトルは無かったり一つになったりします。

## 第1話　出会い　強襲

「・・・はい。ご苦勞様でした。」

そう言ったのは何処かの会社の社長のような小太りで初老の男だった。

そう今居るのはレッド2人組に盗みを依頼した男の会社だった。

「結構簡単な警備だったんだ。ルパン三世の警備もプラスされてるからどんな警備か心配だったけど簡単に忍び込めたんだ！」

「・・・調子に乗るな。アスカ。」

ケイが窘める

「何よお・・・」と口を尖らせるアスカ。

「ハッハッハ。兄弟喧嘩はよしたまえ。」と依頼者が言う。

「あ。申し遅れたね。私、この建設会社の社長を務める広瀬貞治と言うものです。どうぞよろしく。」と名刺を渡しながら言った。

アスカもケイも、恐る恐る頭を下げ、自己紹介をした。

「それにしても宝ってなんなんですか？」とアスカが思い出したように聞いた。

「ああ・・・。私達が建設現場で偶然掘り出した物で・・・。」と言いながら盗み出した箱を開けた。

「・・・宝の地図さ。」とわざとらしく重々しい声で言った。中には20センチほどの古い絵が描かれた紙が入っていた。

「へーこれがあ。」と言いながら近づいて見てみるアスカ。

「それが本物かどうかわからないがな」とケイが後ろから言った。

「ハッハッハ。それも有り得るな。まあこれが本物だと信じよう。」と笑いながら言った。

「へえ」。それが宝の地図。ねえ。」という声がドアから聞こえ

てきた。

皆が振り向くとそこにはモンキー顔の赤いロングジャケットを着た男が居た。

ルパン三世である。

「ル、ルパン！」と広瀬が叫ぶ。

「お・・・おい。私のボディガードはどうした!？」

「御心配なく。ちゃんと眠っててもらってますよ。」とルパンが微笑を浮かべながら言った。

と、アスカとケイを見て言った。

「ほう。ほう。これは怪盗レッドの2人組野郎も子供を産んでいやがったのか。いや。「元」怪盗レッドと言うべきか。」と独り言のように呟いた。

「・・・で？用件は何なの？」とアスカが身構えながら強気に言った。

「ふむ。本題に入るか。」と、ルパンが宝の地図を見ながら言った。

「その宝の地図とやらを頂こう！」とルパンが叫んだ。

「・・・へうつまりやり返して事でしょ？」とアスカがにやりと笑いながら言った。

「・・・大人げ無いな。」とケイがにこりもしないで言った。

「うつるせいッ！とにかく！その地図を頂こう！」とルパンが叫んだ。

次の瞬間。大きな窓に一機のヘリが近づいてきた。何事かと皆が窓を見た。

広瀬が近づくと、そのヘリの中から一人の迷彩服を着込んだ男が現れた。

その男は「SR25」スナイパーライフルを構え、狙った。

突然の事で、皆対処が出来なかったが、ルパンが我に返ったように叫んだ。

「伏せろ！」と。

と、男が「SR25」を撃ちまくってきた。一番窓に近かった広瀬



が撃たれ、倒れた。

ルパンが、アスカとケイを抱き抱え、社長机の中に隠れた。

「ここに居ろ。」とルパンがいつものおふざけな顔が消え、一瞬で、殺し屋の顔に変わっていた。

愛銃「ワルサーP38」を構え、ヘリに向かって撃った。一発当たったようだが、変わらず撃ってきた。

ちらつと広瀬を見ると、呻き声を上げていた。（まあここまで来れば助けてやらなくちゃな。）とルパンは思い、ワルサーを撃ちまくって気を逸らし、広瀬を引きずり込んだ。

と、パトカーがのサイレンが大量に聞こえてきた。チャンス。ルパンはそう思った。

この建設会社は、大事な会議用とかに臨時で使用する、目立たない支部社だったので、本社と比べれば、二階建てで小さい。そこらにあった消火器をヘリに投げつけた。

迷彩服の男は、条件反射で消火器に銃弾を撃ち込んだ。と、爆発と白い粉が辺りに撒き散らされた。

男の気が逸れてる間に、ルパンは広瀬を抱きかかえ、アスカとケイに言った。

「俺が飛び降りるところと一緒にの所に飛び降りろ！」

「無茶言わないでよ！」とアスカが抗議する。

「お前なら死なないだろ。」とケイが少量皮肉を込めて言った。

「早くしろ！」とルパンが怒った。

と、ルパンが飛び降り、それに続いて、ケイとアスカが飛び降りた。男は「SR25」を急いで構えて撃ったが、遅かった。もう飛び降りていた……。

## 第1話く出会いく強襲（後書き）

ちゅーとはんばな終わり方ですね！

突っ込まないで下さい！

登場した銃を紹介します。

「SR25」

ナイツ・アーマメントのユージン・ストーナーによって開発された、セミオートスナイパーライフル。AR15、M16が元となっている。

AR15、M16とは60%部品を変えており、レシーバー、撃鉄等が、オリジナルのものである。ちなみに、アメリカで運用されているものは、mk11というSR25を基に開発されたスナイパーライフル。しかし本作で使用するSR25は、独自にカスタム等をされたモデルで、mk11並の性能を持つ。命中率と、信頼性は非常に高く、7.62mm NATO弾を使用する。装弾数も20発と多い。

「ウルサーP38」

ウルサー社が開発した、軍用自動拳銃。

第二次世界大戦では、ナチス軍が正式採用していた。

非常に小型で、高い機動性を誇り、安定性も高く、連射力も高い。

しかし、弾詰まりが起きやすく、装弾数も8発。ルパンも使用している為、日本では知名度が高い。

銃紹介は、まだまだ続きます。

誤字訂正、御感想。御待ちしています。

## 第二話　市街地戦（前書き）

宝の地図っていうのが子供っぽくてすみません・・・。

## 第二話　市街地戦

運良くパトカーの上に飛び降りれた。ルパンはそう思った。

「ッ……。いてーな畜生。」と、腰を擦る。

ため息をつくのと、抱いていた広瀬を傍らに置いた。と、上からアスカとケイが降ってきた。

ルパンの腹の上に見事着地した。ルパンは思わず呻き声を上げた。

「……。おい……。降りろ……。」

「え？あつ……。ああ！ごめん。」

「……。ごめん。」

「ったく……。その時パトカーから聞き覚えのあるでかい声でした。

「ルパン！逮捕するうううう！！」

「ゲッ！？とつつあん！？」

なんと銭形が居たのだった。

「はっはっは！貴様の居る所この銭形有りだ……。まあ屋台で飯食ってたらいきなり銃声がしたから来ただけなんだが。」

「そんな事よりもとつつあん！パトカー貸してくれ！」

ルパンが銭形の手を握り、言った。

「ナニ？おお！お前も自首する事に決めたか！」

「いやそうじゃなくて……。」

「いやー！もう自首する事に決めた！」

「とつつあんに決められちゃ困る。」

「ねえ！そんな事よりもアイツ来るんだけど……！」

アスカがへりを指差して言った。先程のスナイパーがこちらを狙っていた。

「……。という訳なんだ。逮捕でも何でもいいから早くパトカー貸してくれ。」

「よし！逮捕だ！」「・・・やだねえ・・・」ルパンは呻いた。スナイパーがこちらを狙い、SR25を撃ってきた。

運転席に座っていた警官は、慌ててパトカーを発進させた。

銭形と、ルパンが銃で撃ち返した。が、一向に怯む様子も無く、スナイパーは撃ってきた。

「とつつあん！高速道路に入ってトンネルに入ろう！」

「よし来た！」銭形がルパンの言った事を警官に指示した。

「・・・巻いたのかなあ？」アスカが心配そうに言った。

「いや。まだ巻いていたないだろう。出口に待ち伏せしているだろう。と、ケイが冷静に言った。

「まあ、このトンネル長いしな。時間はたっぷりあるし、作戦を練ろうぜ。」とルパンが座席にゆったりと座り、言った。

「それにしてもルパン。この2人の少年少女は誰だ？」と銭形が聞いた。

「あーいや・・・その・・・」とアスカが慌てて何か言おうとしたが、上手い言い訳が出ない。

ケイは、横でため息をついた。まるで「何やってるんだ。」と言いたげに。

まあ、大怪盗と一緒に居て、軍用スナイパーライフルで狙われているんだから言い訳のしようもないが。

「まあ。いい。本官が家に送り届けてあげよう。」と銭形が言った。アスカとケイはほっとしたようにため息をついた。

「それにしても。ルパン。お前の盗んだ物とは一体？」と銭形が聞いた。たぶん博物館の連中からも知らされていなかったんだろう。

まあとうの博物館の連中も知っていたかどうか怪しいが。

「宝の地図さ。」とルパンが言った。

「何の？」と銭形がじれったそうに言った。アスカもケイも、そういえば広瀬から聞かされていなかった。広瀬？そういえばどうしたのだろう？

「あの、一緒に居た社長さんみたいな人どうしたんですか？」

「ん？ああ。広瀬氏か。心配無い。ちゃんと救急車で運ばれている。」

「良かったあ……。」とアスカがほっとしたように言った。

「つと続きを話せ。ルパン。」と銭形が思い出したように言った。

「分かった。……とつつあんは火星人って信じるか？」

「火星人がどうかしたのか？」と銭形が聞いた。

「ああ。この。」と、いつの間に取りつたのか。例の宝の地図を出した。

「この地図はな。江戸時代前期。その頃はまだ神様や悪魔なんかが信じられていた時期だ。ある日空から釜のようなものが降ってきた。その中から得体の知れない生き物が出てきたんだ。その生き物は怪我をしていて、その怪我を治した医者と仲良くなった。そしてその生き物は自分は宇宙から来たと話し、火星から来たと話したらしい。そして寿命が来た時。そいつが隠した財産をお前に託す。決して使い道を誤ってはいけなと言ったらしいんだ。しかしその医者は無欲で、藩の藩主に直々に渡したんだ。その医者は村に住んでいるとはいえ、藩主からも絶大な支持を貰っていたからな。しかしその地図の取り合いになり、果ては家臣までが藩主を殺して奪おうとしたんだ。その光景を見た医者は耐え兼ね、地図を奪い、逃げ去った。そして、医者はもう二度とこのような事にはならないようにと地下に埋めたらしい。その後、將軍に地図を要求されたが、その翌日自害したらしい。その宝は金銀財宝だとか永遠の命だとか世界最高精度の頭脳だとか言われている。そしてその地図を掘り出したのが広瀬とか言う建設会社の社長さんさ。その社長の地図を盗んだのが美術館の連中らしい……。どうだ？分かったか？」とルパンが言った。

「……はっはっはっは！ルパン！そんな話がまさかある訳ないだろお！」と銭形が笑い飛ばした。

後部座席に居たアスカも信じられないという顔をしていて、ケイは話も聞かずに何処にあったのか本を読んでいた。

「そのまさかさ。」とルパンは真面目な顔で答えた。話している途中でトンネルの出口が後600mという看板が出た。ルパンと銭形は警戒態勢に入った。その時ヘリのモーター音が聞こえてきた。なんとヘリがこの狭いトンネルの中に入っていた。しかも車に当たらないように天井ギリギリで。幅は結構広かったので入れたが。

「マジかよ！」とルパンが叫んだ。あのスナイパーが、今度はM249SAWを構えていた。

そのM249SAWを撃ちまくってきた。しかも軽機関銃だ。拳銃ではもはや勝てない。

「突っ込めええええ！」と銭形がM1911ガバメントを撃ちまくりながら警官に叫んだ。

警官はアクセルを思い切り踏んだ。銃弾がパトカーのボディを貫通し、穴を開けていった。

ヘリの下をつつきり、トンネルの出口へと出た。アス力は思わず後ろを見た。ヘリの後ろには、この騒ぎを見て、事故った車が大量にあった。アス力は思わず身震いした。

その後、運悪く渋滞だった。ヘリはすぐ後ろに居た。M249SAWを撃ちまくってきている。

どうする？ルパンは考えた。もはやワルサーの弾丸は後一発しかない。とつつあんのガバメントも弾切れだ。助けを求めるようにアス力を見た。そして思わずあのカードの模様を思い出した。鳥の羽が描かれたカードだ。・・・鳥？そうだ！電線だ！しかし、一発で当てられるだろうか？あの細い電線を。

その余計な思いを振り切り、ルパンはワルサーを構え、電線を狙った。M249SAWの弾丸が弾切れになったのか、弾替えをしていたが、直に終わり、M249SAWを構えた。ニヤリとスナイパーが勝利に満ちた顔を浮かべ、M249SAWを構えた。ルパンは引き金を引き絞り、撃った。

弾丸は

電線に見事命中し、スナイ

パーがM249SAWを撃つ前に切れた電線が、トンネルの銃撃戦

で喰らったのか、割れていた防風ガラスの大きな穴に入り、操縦席に居た男に当たった。

断末魔が聞こえ、閃光が走った。そして爆音が轟き、ヘリがゆっくりと回転しながら落ちていき、爆発した。

「ふう……。」「ルパンはため息をついた。今日何度ため息をついただろうか。

「すつごい！この距離で電線を当ててしかも倒すなんて！」と無邪気に言うアスカをルパンは苦笑しながら言った。

「お前が助けてくれたのさ。」

「……。？」アスカは訳が分からないという顔でルパンを見た。ケイは、無表情な顔で、「ありがとう。」とルパンに言った。

「ルパン！忘れていたがこの渋滞が終わったら貴様を本庁に渡してやる！」と銭形が叫んだ。

が、いつの間にかルパンは消えていた。しかも、傍に居たアスカとケイも一緒に。

「くそおおおお！！ルパンめえええええ！」と銭形が地団太を踏んで言った。



その頃。ヘリの落ちたところらへんで、男が一人居た。あのスナイパーだった。無線が来たのか、トランシーバーを耳に当てて話した。「・・・どうだ？状況は。」という男の声がトランシーバーから聞こえてきた。

「いや。悪い状況だ。ルパンと怪盗レッドの二人組に逃げられた。しかも地図も一緒にな。」

「そうか。それで被害は？」

「ヘリー機と、俺以外全滅だ。」

「何だと？」と向こう側の男が驚いたように言った。

「まあいい。さっさと戻ってこい。次の作戦に移る。今度はしくじるなよ。スナイパー・rabbit・shot君？」

「了解。」とrabbitshotと言われた男は、何処かへと歩いて行った。

## 第二話　市街地戦（後書き）

誤字訂正、感想お待ちしています。

銃説明。

M1911A1・コルト・ガバメント

第二次世界大戦中、米軍が正式採用した拳銃。

フルサ等が使う9mmパラペラム弾より威力の高い45・ACP弾を使用する。装弾数は7発。大型拳銃で、反動が強い為、日本人には上手く扱えない。しかし銃形は、特技でもある握力と腕力で、片手で撃っている。9mm弾より人体への殺傷能力は高いが、貫通性能は少ない。

M249SAW

ベルギー製軽機関銃。c-magという下部につけるベルト式マガジンを使用する事もあり、機関部上に200発のベルトリングを込められるプラスチック製弾装M27を装着する事が多い。本作では100発のベルト式マガジンを使用している。銃本体の重量を軽くする事により、高い携行弾数を誇る。日本やアメリカでは、分隊単位に支給され、火力支援とされる。冷却は空冷式で、銃身交換も容易。二脚が標準装備されており、簡単に携行が可能である。倍率スコープも装着可能。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0465z/>

---

ルパン三世VS怪盗レッド

2011年12月17日22時52分発行